

各位

日本農産工業株式会社

2012年10～12月期の畜産配合飼料価格について

畜産配合飼料価格改定額

弊社は、2012年10～12月期の畜産配合飼料価格につきまして以下の飼料原料情勢等に基づき、2012年7～9月期に比較して全国全畜種総平均トン当たり約4,980円値上げすることを決定致しました。なお、改定額は地域別・畜種用途別・銘柄別に異なります。

飼料原料・外国為替情勢について

1. 主原料（飼料穀物）

シカゴ定期とうもろこし相場は、主産地である米国中西部が歴史的な早魃に見舞われ、本年のとうもろこし生産量が作付け時期の見込みを大きく下回る不作になることが確定的になったことから、史上最高値を更新する等、大きく上昇しました。

6月までおおむね5ドル台後半～6ドル台後半／ブッシェルの範囲で推移していたとうもろこし相場は、7月以降7ドル40セント～8ドル40セント／ブッシェルと、3割程度上昇しています。相場の高騰により、米国内における畜産用途向け需要や、輸出向け需要の減退などの動きは見られるものの、来年にかけて米国産とうもろこしの需給状況が逼迫基調になる可能性は依然高く、相場は今後も高値圏での推移が続くことが想定されます。

2. 副原料（植物蛋白原料）

シカゴ定期大豆粕相場は、早魃の影響で米国産大豆の減産が確定的になったことを主要因に、大きく上昇しています。7月初めは440ドル／ショートトンの水準で推移していた相場も、7月下旬以降は、一時史上最高値となる550ドル／ショートトンを上回る等の上昇を見せ、現在もおおむね500ドル／ショートトン以上での取引が続いています。

このような状況を受け、10～12月期の大豆粕価格は、7～9月期比較で、約20%の値上がりとなる見込みです。

3. 海上運賃

米国ガルフ／日本間パナマックス級本船の運賃は、40ドル台後半～50ドル台前半水準での取引となっています。世界的な経済の減速懸念に伴い海運市況は低調な傾向にあることより、海上運賃は若干弱含みで推移しています。

4. 外国為替

直近のドル／円相場は、おおむね1ドル＝77円台半ば～79円台半ばの範囲で取引されています。景気停滞感が強いことから、日米共に金融緩和策を拡大しており、結果的にドル／円相場に大きな動きはなく、比較的安定して推移しています。